

農試第143-8号  
令和2年7月27日

各関係機関の長 様

福井県農業試験場長  
(公印省略)

農作物病害虫発生予察注意報第2号の送付について

このことについて、下記のとおり発表しましたので送付します。

連絡先 福井県農業試験場 病害虫防除室 TEL 0776-54-5100(代表) 0776-54-9315(直通) FAX 0776-54-6403 E-mail byogaichu-boujo@fklab.fukui.fukui.jp
---

令和2年農作物病害虫発生予察注意報第2号

7月上旬の葉いもち発生は少なかったが、育苗箱施薬剤の効果が切れ、7月中旬には平年よりやや多い発生となっており、穂いもちに移行しやすい上位葉での発病もみられる。今後コシヒカリの出穂期を迎えるが、そのころまでいもち病の感染に好適な曇りや雨の日が多い予想で、穂いもちが多発する恐れがある。ここに防除の徹底を図るため注意報を発表する。

病害虫名 穂いもち (中晩生)

1 注意報の内容

発生時期：初発期は8月上旬

被害程度：中発、ただし山間、山沿い、常発地では多発

発生量：平年、前年より多い

2 注意報発令の根拠

- (1) 葉いもちの発生は圃場間差が大きく、育苗箱施薬剤を用いていない圃場で多発生している圃場がみられる。また、普段発生しない平地でも発生がみられ、発生圃場率は高い。
- (2) コシヒカリの出穂期は平年並みで(5月20日植えて8月2日ごろ)、梅雨明けが遅れる見込みのため、出穂期まで穂いもちの好適条件が続く可能性がある。
- (3) 梅雨入り以降日照時間が少なく、イネの穂いもちに対する抵抗力は低下していると考えられる。
- (4) 葉いもちの感染好適条件は県内各地で頻繁に出現しており、穂いもちの伝染源になる上位葉での発病の増加が予想される。

### 3 防除対策

- (1) 出穂直前と穂揃期の2回、薬剤を散布する。
- (2) 出穂期以降も降雨が続き、多発が予想される場合は傾穂期に追加防除を行なう。後半の防除は収穫前日数に気をつける。
- (3) 降雨続きの際は雨のやみ間を見て、雨のやみ間がないときは、少雨の時にでも薬剤を散布し、適期防除に努める。
- (4) 同一系統薬剤、特に有機リン剤の連用を避ける。また、MBI-D剤を苗箱施薬した圃場ではMBI-D剤の粒剤・粉剤DLは使用しない。
- (5) 防除薬剤は令和2年度福井県農作物病害虫防除指針を参照。
- (6) 周辺居住者等への事前周知および飛散防止に努める。

#### 《粉・液剤・微粒Fでの防除》

- (1) 出穂直前と穂揃期の2回薬剤散布を行う。
- (2) 散布後4時間程度降雨がなければ十分な効果が期待できる。

#### 《粒剤での防除》

- (1) 粒剤での防除は、薬剤によって散布時期が異なるので注意する。
- (2) 散布時は排水口をしっかりと閉じ、水深3～5cm程度の湛水状態とし、自然落水させる。施用後1週間程度はかけ流しをしない。

#### 《追加防除》

出穂期以降に降雨が続く場合は、傾穂期に追加防除を行う。

#### ◎ 収穫7日前まで使用できる薬剤

ビーム粒剤DL

ビームスタークル粒剤5DL (カメムシ同時防除)

ラブサイド粉剤DL

ブラシン粉剤DL (変色米同時防除)

ビームエイトゾル

ビームエイトスタークルゾル (カメムシ同時防除)

ラブサイドダントツフロアブル (カメムシ同時防除)

ブラシンフロアブル (変色米同時防除)

ビームスタークル微粒剤F

◎ 防除対策の詳細は、令和2年度福井県農作物病害虫防除指針 p36～39 参照。